

★ ナシ 黒星病 情報

発生量が平年比多い状況です
今後、降雨により本病の発生がさらに広がる恐れがあります

1、発生状況

6月中旬に実施したナシの巡回調査では、**黒星病(写真1)の発病葉率は8.2%(平年比多い)、発生ほ場率は80%(平年比多い)と、過去10年間の調査結果と比較するとそれぞれ最も高い値、二番目の値でありました(表1)**。本病は降雨により伝染します。現在、梅雨時期で曇雨天の日が続くため、本病の発生がさらに広がる恐れがあります。ほ場における発病状況を常に確認し、徹底した防除を行ってください。

2、防除対策

- ・発病した葉、果実(写真1)は本病の伝染源となるため、見つけ次第取り除き、ほ場外へ持ち出して土中に埋めるなど適切に処分しましょう。
- ・薬剤散布の際は、薬液を十分量散布し、薬剤が樹全体にかかるようにしましょう。特にほ場の周辺部など薬液のかかりにくい場所は丁寧に散布しましょう(使用する殺菌剤については表2参照)。
- ・作用機構(FRACコード)が同じ薬剤を連続して使用することは避けましょう(表2)。



写真1 ナシ黒星病

上:葉での発生(右下は葉裏)、下:幼果での発生

表1 巡回調査(6月)におけるナシ黒星病の発生状況

調査年	調査項目	
	発病葉率(%)	発生ほ場率(%)
H27 (平年比較)	8.2 (多い)	80.0 (多い)
平年値	1.1	20.3
H26	0.2	20.0
H25	0.0	0.0
H24	0.0	0.0
H23	4.0	50.0
H22	0.0	0.0
H21	4.0	33.3
H20	0.0	0.0
H19	0.0	0.0
H18	0.0	0.0
H17	2.5	100.0

表2 ナシ黒星病に登録のある主な殺菌剤

農薬名	希釈倍率	使用量	使用時期	使用回数	*FRACコード*
オンリーワンフロアブル	2000～4000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	3
スコア顆粒水和剤	4000倍	200～700L/10a	収穫14日前まで	3回以内	3
フルーツセイバー	1500～3000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	7
ユニックス顆粒水和剤47	2000倍	200～700L/10a	収穫21日前まで	3回以内	9
アミスター10フロアブル	1000～1500倍	200～700L/10a	収穫前日まで	5回以内	11
ストロビードライフロアブル	3000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	11
ナリアWDG	2000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	7、11
キノンドーフロアブル	1000倍	200～700L/10a	収穫3日前まで	9回以内	M1
オキシラン水和剤	500～600倍	200～700L/10a	収穫3日前まで	9回以内	M1、M4
ベルコート水和剤	1000～1500倍	200～700L/10a	収穫14日前まで	5回以内	M7

* FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類

- ・ 農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用してください。最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」をご覧ください (<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)。